

平成 28 年度 事 業 報 告 書  
平成 28 年度 計 算 書 類 等

自 平成 28 年 4 月 1 日  
至 平成 29 年 3 月 31 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会



# 目 次

概 況	1
-----	---

## 事業報告書

A 研究事業	
I 共同研究事業	4
II 個別研究事業	8
III 各種研究会	10
1 早期胃癌研究会	
2 大腸研究会	
IV 研究成果の発表	17
1 論文・著書	
2 学会活動	
3 研究会・研修会における講演	
4 共同研究	
B 研修事業	26
I 実技研修の受入れ	
II 平成消化器懇話会の開催	
C クリニック運営事業	27
D 啓発事業	41
E 法人運営	42

## 計算書類等

A 貸借対照表	47
B 正味財産増減計算書	48
C 財務諸表に対する注記	50
D 財産目録	52



## 概 況

日本経済は、労働市場の改善を起点とする好循環等を背景に、緩やかな回復が続いており、企業業績の改善が設備投資や雇用の拡大、賃金の引き上げにつながれば、デフレからの脱却も期待できる状況である。

一方、検診業界は、検診仲介事業者の参入等により、コストダウンとクオリティの向上という両極にあるニーズに応えることが求められるという大変厳しい経営環境におかれている。また、大腸がんや肺がんの増加などの疾病構造の変化や ABC 検診をベースとした胃がんのリスク検診への移行などの変化がみられ、検診のあり方が問われている。

平成 28 年度は、減少傾向にある受診者の確保に努めるとともに、新たな社会ニーズに対応するため、当協会独自の検診方法を確立し、それを実施するための準備に取り組んできた。平成 29 年度は、基盤事業である検診・診療事業の規模の維持に努めるとともに、調査研究事業、研修指導事業及び普及啓発事業を積極的に展開し、協会の安定的な運営を確保していかなければならない。

当協会が平成 28 年度に実施した事業は、以下のとおりである。

研究事業については、共同研究・個別研究ともに一定の成果を上げることができたので、引き続き、積極的に研究事業に取り組んでいく。

研修事業のひとつである放射線技師研修については 1 名を受け入れ、消化管の X 線検査研修を行った。さらに、地域の開業医等を対象とした平成消化器懇話会を 3 回開催した。

クリニック運営事業については、検診のうち施設内検診（当協会施設で実施する検診）及び巡回検診は前年度よりわずかに減少し、全体として検診規模は縮小となった。一方、外来診療の患者数は前年度より減少した。

啓発事業については、保健指導者セミナーを開催し、多くの方々の参加を得た。また、医療に関するタイムリーな話題を取り上げたニュースレターを 2 ヶ月に 1 回の割合で計 6 回発行した。

今後とも当協会は、基盤事業であるクリニック運営事業（検診・診療）の規模の維持・拡大に努めるとともに、研究事業、研修事業及び啓発事業を積極的に展開し、もって都民のがん対策及び健康増進に貢献する。



# 平成 28 年度 事業報告書

## A 研究事業

当協会は、検診・診療を通じ、早期胃がんを主として大腸や食道の早期がんを含めた消化器系疾患の学術的かつ診断技術的な研究を行っている。

研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業、協会職員が個別に研究テーマを設定して研究を行う個別研究事業及び学術研究会を開催し支援する事業がある。

### I 共同研究事業

共同研究事業は、研究本部に所属する研究室がその中長期目標を達成するために行う研究事業である。平成 28 年度の研究テーマは、平成 27 年からの継続のものが 4 テーマ、新規のものが 2 テーマ、合計で 6 テーマである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

#### <研究テーマ>

##### 1) より効果的な食道・胃・大腸・肺がんリスク検診に関する研究（継続）

（研究本部がんリスク検診研究室）

日本人の疾病構造の変化に合わせた新しい視点からの「食道・胃・大腸・肺がんリスク検診」を検討して、検診を請け負っている企業などに提案するのが本研究の目的である。

平成 24、25 年度は、論文などで報告された資料を参考にして、当協会独自の「がんリスク検診」を提案した。平成 26 年度は胃に関してはピロリ感染の有無のみでリスクを評価し、ピロリ陽性者には保険診療で除菌治療を行う独自の胃がんリスク検診を作った。さらに、肺がんに関しては喫煙指数と禁煙期間から、食道がんは飲酒と喫煙指数から高リスク者を 10%程度に絞り込む試案を作った。

平成 27 年度、28 年度共に、複合リスク検診の試行について企業検診担当者との相談を行ったが実現できず、また研究面での新しい成果は得られなかった。現状のままでは提案してきた複合リスク検診の導入は困難と考えられる。今後は、新しい視点からの消化管がん検診の可能性について検討することとして本研究は終了とした。

##### 2) 効果的な特定保健指導に関する研究（内臓脂肪面積データの解析）（継続）

（研究本部保健指導研究室）

健康保険法改正に伴い平成 20 年から開始された特定健診におけるメタボリック症候群該当者に対する特定保健指導の有効性を高める方策について研究する。

平成 25 年度は 360 名を内臓脂肪面積測定機で内臓脂肪面積を測定した。内臓脂肪の中央値は 84.65 cm<sup>2</sup>で、100 cm<sup>2</sup>以上の人は 28%で、内臓脂肪面積と BMI は中等度の相関、腹囲とは強い相関があった。



平成 26 年度は、132 例で検討した結果、100 cm<sup>2</sup>以上では 76%がメタボ判定であった。

平成 27 年度と同様に、平成 28 年度は内臓脂肪面積を測定した特定保健指導対象者 9 名の保健指導前後の内臓脂肪面積と体重、腹囲、血圧の変化との関係をピアソンの積率相関係数でみると、腹囲とは  $r=0.51$ 、体重とは  $r=0.67$ 、最高血圧と  $r=0.65$ 、最低血圧とは  $r=0.78$  といずれも高い相関がみられ、また、内臓脂肪面積の減少と血圧の減少には関連があった。

平成 29 年度も同様の検討を続け、特定保健指導の効果を検討する。

### 3) 検診胃 X 線検査 造影剤少量化の検討 (継続)

(研究本部画像病理研究室)

日本消化器がん検診学会新・胃 X 線撮影法ガイドライン改訂版 (2011 年)によると、検診胃 X 線検査で使用する造影剤は、濃度 180~220w/v%の高濃度低粘性粉末バリウム 120~150ml を使用するとあるが、使用量の上限と下限には 30ml の幅がある。

平成 24 年度はバリウム量 120ml と 150ml について検討して 150ml を、平成 25 年度はバリウム量 130ml と 140ml について検討して 140ml を使用したほうが横胃、鉤状胃、下垂胃のいずれも良好な画像が得られた。

平成 27 年度は、150~120ml の間の造影剤量でどこまで減量可能か胃型別に検討する目的で、120ml と 150ml の造影効果の比較した結果、鉤状胃・下垂胃では、胃体部及び幽門部では造影効果に差が出なかったが、胃上部、特に大彎から前壁では造影効果に差が出た。横胃においては、体部では差が出なかったが胃上部と幽門部で造影効果に差が出た。

平成 28 年度はバリウム量 120ml でも胃上部の造影効果を良好に保つ体位変換について検討した。しかし、バリウム量 120ml では体位変換を追加しても造影効果の改善はなく、最終的に様々形状の胃の全域の造影効果を良好に保つには、バリウム量は 150ml が必要であるとの結論になった。

### 4) *H.pylori* (HP) 除菌後胃における癌検出困難因子の検討 (継続)

(研究本部がん対策研究室)

ピロリ感染胃炎に対する除菌の普及の結果、除菌後の胃がんに遭遇する機会が増加している。除菌後の胃がんは発見が困難と一般的にいわれているが、診断困難となる因子は明らかでない。また、従来のピロリ感染胃に対する内視鏡検査との相違点も明らかでない。そこで、除菌後胃の内視鏡検査の注意点、特に観察時の注目点を検討することが本研究の目的である。

平成 28 年度は、ピロリ除菌後発見胃がん 26 病変とピロリ現感染胃がん 23 病変を対象に、診断時点以前の内視鏡検査でがん検出困難であった因子を抽出して、両者のがん拾い上げの留意点を検討した。また、除菌後急速進展例 3 病変について病理学的検討をおこなった。その結果、除菌後胃がんでは胃炎凹凸類似 54%、発赤陥凹 42%、現感染胃がんでは萎縮粘膜類似 43%、胃粘液で指

摘困難 31%、胃炎凹凸類似 26%が発見困難の要因であった。ピロリ現感染胃と比較して除菌後胃では、特に除菌治療後に出現する発赤陥凹に類似した癌の存在に注意する必要がある、除菌後癌を発見するためには発赤の色調や辺縁隆起に形状などに注意を払う必要があると思われた。一方、急速進展予後不良例には胃型形質を示すものが存在した。

以上の研究成果は、第 91 回日本消化器内視鏡学会シンポジウム 3、第 22 回日本ヘリコバクター学会学術集会シンポジウム 1、DDW（米国消化器病学会）2016、APDW（アジア太平洋消化器学会）2016 で発表した。

#### 5) 強力な酸分泌抑制薬を用いた *H.pylori* 除菌治療の有用性の検討（新規）

（研究本部がん対策研究室）

強力な酸分泌抑制効果があるプロトンポンプ阻害薬であるラベプラゾール（パリエット®）を用いたヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を平成 26、27 年度に検討してきた。平成 27 年 3 月よりさらに強力なアッシドポンプ競合型アッシドブロッカー：P-CAB（タケキャブ®）が除菌治療に用いられるようになったので、平成 28 年度はその有用性を検討した。

除菌治療を希望する患者を登録制にして、一次、二次、菌療法を除菌率、副作用の頻度と内容を調査した。

	除菌率	副作用発生率
一次除菌： P-CAB+AMPC1500+CAM400	88.3% (166/188)	6.4%
P-CAB+AMPC1500+CAM800	95.3% (164/172)	11.4%
二次除菌： P-CAB+AMPC1500+MNZ500	98.1% (51/52)	5.8%

一次除菌に関して、クラリスロマイシン(CAM) 800mg/日投与群の方が 400mg/日投与群に比べて有意に高い除菌率を示した (p=0156)。副作用に関しては、800mg/日投与群のほうが若干多い傾向があったが、臨床上問題となる薬疹は、それぞれ 4 名であった。二次除菌は更に高い除菌率を示した。この研究成果は DDW（米国消化器病学会）2016、UEGW（欧州消化器病学会）2016、APDW（アジア太平洋消化器病学会）2016 で発表した。

「*H.pylori* 感染の診断と治療ガイドライン 2016 年版」では 400mg/日投与が推奨されているが、当協会での検討では異なる結果であった。そこで平成 29 年度は、当院では有意に除菌率が高かった CAM800mg を含むパック製剤を除菌治療に主に使用して、その除菌率を再確認するとともに、除菌率の差の要因を検討するのを到達目標とする。

#### 6) レーザー内視鏡を用いたヘリコバクター・ピロリ陽性慢性胃炎に対する内視鏡自動診断プログラムの開発（新規）

（研究本部画像病理研究室）

ヘリコバクター・ピロリ感染による慢性胃炎は、胃がんをはじめとする様々な胃疾患の原因になることが知られている。そのため平成 25 年、健康保険に

よるピロリ胃炎の内服治療が認可された。本研究の最終の目的は、内視鏡検査時におけるピロリ菌感染予測を補助する「内視鏡自動診断プログラム」を作成することである。研究は「千葉大学フロンティア医工学センター」と「富士フィルム株式会社」との共同研究で、役割分担を明確にする。当協会としては、千葉大学での解析に使用する内視鏡画像データとピロリ菌感染情報（*H. pylori* IgG 抗体価）を 100 人分収集する。千葉大学での白色光、Blue LASER Imaging (BLI)、Linked Color Imaging (LCI)における内視鏡画像データの解析を担当するが、平成 28 年度は、最初の段階として、解析のための画像診断のプログラムを作成するために必要な情報を集め分析することに取りくんだ。ピロリ陽性 50 例と陰性 59 名の 2 群に分けて、deep learning の framework を用いて 2 群の内視鏡画像分類プログラムを試作した。試作した診断プログラムの感度は 41.3%、特異度 95.0%、ROC 曲線による AUC は 0.864 で、中等度の診断精度と判定された。

この研究成果は APDW（アジア太平洋消化器病学会）2016 で発表した。平成 29 年度は、28 年度に試作した診断プログラムの感度を向上させる目的で研究を進める。特にレーザー内視鏡の特徴である画像強調法 BLI、LCI のピロリ陽性慢性胃炎の診断の有用性について検討を行う。

## II 個別研究事業

個別研究事業は、前年度から継続して研究するものが1テーマ、平成28年度から新たに研究を開始したものが2テーマ、合計で3テーマあり、それぞれの研究内容は次のとおりである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

### <研究テーマ>

#### 1) 上部消化管内視鏡検査受診者におけるヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の実態と正確な把握に関する検討（継続）

（山崎琢士）

胃炎の内視鏡分類として「胃炎の京都分類」が提唱されているが、妥当性に関して十分な検証が行われておらず、かつ非常に複雑である。現感染胃・除菌後胃（既感染胃）・未感染胃ごとに特徴的な内視鏡所見を整理し、簡便でかつ客観性のある分類を提案することを本研究の目的とする。

平成27年度は、ピロリ菌感染診断がなされ、性別・年齢を調整した現感染50例と現在非感染（未感染、既感染例）50例を抽出し検討したが、現感染を明確に示唆する所見は得られなかった。平成28年度はピロリ感染の有無が明確で内視鏡画像の解析が可能な3,872例について検討した。その結果、ピロリ未感染胃に最も高率に認められた所見は「胃角までの小彎ひだの巻き込み」で100%に認められたが、広く用いられているRAC所見は68%に認められたに過ぎなかった。既感染胃に最も多く認められた所見は「地図状発赤」であったが、感度は31%と低かった。現感染胃の特徴とされているひだ腫大、びまん性発赤、点状発赤に関しても感度は50%未満であった。

今回の検討結果から、ピロリ現・既感染胃の内視鏡所見は極めて複雑で多彩であることが結論付けられた。研究担当者の退職のために、本研究はこれで終了となる。

#### 2) ピロリ除菌治療後のバレット上皮の進展（新規）

（榑 信廣）

平成24～27年度までの検討で、5年以上の経過観察でも、内視鏡的正常胃症例からの胃がんの発生はなく、内視鏡的正常胃の約半数にバレット上皮が認められ、比較的若い年代で進行することが推測された。その検討結果から、胃の酸分泌機能が改善すると考えられている除菌治療後の患者のバレット上皮の推移についても興味を持たれるところである。その視点から、ピロリ除菌治療後のバレット上皮の推移を中心に研究する。

本検討の前に行った研究として、当協会でも5年以上経過を観察した男性症例で検討した結果、ピロリ陽性患者より除菌後の患者の方が高頻度にバレット上皮が認められた。

平成 28 年度は当協会内で内視鏡検査を受けた患者のなかから、ピロリ除菌治療を受けた時期が明確で、かつ除菌前後に 3 年以上経過を観察されていた男性 69 症例、女性 20 症例で検討した結果、除菌後だけにバレット上皮が進展したと考えられた症例は男性 19%、女性 5%であった。バレット上皮の進展は男性例で主に認められたが、年齢、酸分泌能の指標になる萎縮境界で層別して検討しても一定の傾向は認められなかった。

平成 29 年度は、症例数を更に蓄積して背景因子を含めた検討を行う。

3) CYP2C19 遺伝子多型と抗菌薬感受性を加味した、エソメプラゾールを用いた 3 剤併用除菌治療成績に関する研究（新規）

（山崎琢士）

オメプラゾールの光学異性体である新世代 PPI であるエソメプラゾール（EPZ）を用いた 3 剤併用療法による除菌治療の除菌率と、CYP2C19 遺伝子多型と抗菌薬感受性の除菌に及ぼす影響を検討するのが本研究の目的である。

UMIN 登録を行った多施設の共同研究で、ピロリ陽性の 76 例（男性 26 例、女性 50 例）平均 57.9 歳が解析の対象になった。一次除菌成功率は ITT 解析 73.7%、PP 解析 74.7%、二次除菌成功率はそれぞれ 100%であった。クラリスロマイシン耐性菌であったのは 30.4%(17/56)で、その一次除菌成功率は 64.7%（11/17）であった。また EPZ では、CYP2C19 遺伝子多型が除菌率に影響を及ぼさない可能性が示唆された。

本研究成果は、UEGW（欧州消化器病学会）2016、APDW（アジア太平洋消化器病学会）2016 で報告した。

### Ⅲ 各種研究会

早期消化管がんの診断技術の進歩とその普及を促進するためには、多くの研究者による多様な症例についての厳しい討論の場が不可欠である。その意味で現在、当協会がかかわっている研究会（早期胃癌研究会、大腸研究会）の役割は大きく、一層の進展に努めてきた。

#### 1 早期胃癌研究会

本研究会は、昭和 35 年に初期癌研究会として発足後 57 年を経過（昭和 39 年に早期胃癌研究会と改称）し、研究会の果たしてきた役割への高い評価と将来への期待の大きさが再認識されている。東京都を中心とした国内の大学、病院から提出される毎回平均 5 症例の X 線、内視鏡、病理検査所見について、最先端のすこぶる厳しい討論が行われた。この研究会を通じて、最新の診断技術と理論の応用と普及が図られ、胃がんを中心とする消化管がんの早期診断法及び治療法は進歩を続けている。

また、本研究会は、日本医学放射線学会から放射線科専門医更新単位取得制度学術集会として認定されている。

平成 28 年度の月例検討症例内容は、早期胃癌研究会実施明細のとおりである。

##### 1) 研究会の運営

研究会は、専門領域や地域性を考慮し選出された 52 名の運営委員により運営されている。そのうち運営幹事が運営委員長を補佐し、研究会運営を推進している。

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

##### 【運営委員長】 1 名

小 山 恒 男 佐久医療センター 内視鏡内科

##### 【運営幹事】 12 名

九 嶋 亮 治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座

小 林 広 幸 福岡山王病院 消化器内科

斉 藤 裕 輔 市立旭川病院 消化器病センター

榑 信 廣 早期胃癌検診協会

清 水 誠 治 大阪鉄道病院 消化器内科

田 中 信 治 広島大学 内視鏡診療科

長 浜 隆 司 千葉徳洲会病院 消化器内科 内視鏡センター

二 村 聡 福岡大学医学部 病理学講座

松 本 主 之 岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科 消化管分野

八 尾 建 史 福岡大学筑紫病院 内視鏡部

八 尾 隆 史 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学

山 野 泰 徳 札幌医科大学医学部 消化器内科学講座  
内視鏡センター

【名誉幹事】 3名

飯 田 三 雄 公立学校共済組合九州中央病院  
多 田 正 大 多田消化器クリニック  
八 尾 恒 良 佐田病院 名誉院長

【顧問】 3名

岩 下 明 徳 福岡大学筑紫病院 病理部  
下 田 忠 和 静岡県立静岡がんセンター 病理診断科  
渡 辺 英 伸 新潟大学 名誉教授

(五十音順)

2) 雑誌「胃と腸」の発行と編集委員

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断など）が編集委員を中心にして執筆、掲載される。

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

【編集委員長】 1名

鶴 田 修 久留米大学医学部 消化器病センター

【編集委員】 25名

赤 松 泰 次 長野県立病院機構須坂病院 内視鏡センター  
味 岡 洋 一 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学  
江 頭 由太郎 大阪医科大学 病理学  
大 倉 康 男 PCL JAPAN 病理・細胞診センター 川越ラボ  
小 澤 俊 文 佐藤病院 消化器内科  
小 野 裕 之 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科  
小 山 恒 男 佐久医療センター 内視鏡内科  
海 崎 泰 治 福井県立病院 病理診断科  
九 嶋 亮 治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座  
蔵 原 晃 一 松山赤十字病院 胃腸センター  
小 林 広 幸 福岡山王病院 消化器内科  
斉 藤 裕 輔 市立旭川病院 消化器病センター  
清 水 誠 治 大阪鉄道病院 消化器内科  
菅 井 有 岩手医科大学医学部 病理診断学講座  
高 木 靖 寛 芦屋中央病院 内科

田 中	信 治	広島大学 内視鏡診療科
長 南	明 道	仙台厚生病院 消化器内視鏡センター
長 浜	隆 司	千葉徳洲会病院 消化器内科・内視鏡センター
二 村	聡	福岡大学医学部 病理学講座
松 田	圭 二	帝京大学医学部 外科学講座
松 本	主 之	岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科消化管分野
門 馬	久美子	がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科
八 尾	建 史	福岡大学筑紫病院 内視鏡部
八 尾	隆 史	順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学
山 野	泰 徳	札幌医科大学医学部 消化器内科学講座 内視鏡センター

(五十音順)



早期胃癌研究会実施明細（平成 28 年度）

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症例
平成 28 年 4 月 27 日 出席人数/320 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	長岡赤十字病院 消化器内科 竹内 学 広島大学病院 内視鏡診療科 田中 信治 獨協医学大学越谷病院 病理診断科 伴 慎一	1) 岩手医科大学 消化器内科消化管分野 2) 宇治徳洲会病院 内科 3) 公立学校共済組合中国中央病院 内科 4) 福岡大学筑紫病院 消化器内科 5) 岐阜県総合医療センター 消化器内科 画像診断教育レクチャー 済生会新潟第二病院 病理診断科	赤坂理三郎 関岡 敏夫 大亀 正義 今村健太郎 山崎 健路  西倉 健	興味深い画像所見を呈した転移性大腸癌の一例 CMV を合併した ATL 消化管潰瘍 巨大な食道ポリープの一例 胃底腺・幽門腺粘膜混合型の胃型腺癌の一例 十二指腸の鋸歯状病変と考えられた一例  テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その 2 「【小腸・大腸】神経分泌腫瘍：neuroendocrine neoplasms」
平成 28 年 5 月 11 日 出席人数/301 名 第 55 回「胃と腸」大会 ニューピアホール	東京女子医科大学 消化器病センター 中村 真一 慶應義塾大学病院 予防医療センター 岩男 泰 東邦大学医療センター大森病院 病理診断科 根本 哲生	1) 埼玉県立がんセンター 消化器内科 2) 東京女子医科大学 消化器病センター 3) 慶應義塾大学医学部 腫瘍センター 4) 東京慈恵会医科大学 内視鏡科 5) 秋田赤十字病院 消化器病センター 画像診断教育レクチャー 大阪医科大学 病理学	有馬美和子 小林亜也子 飽本 哲兵 井出 大資 松下 弘雄  江頭由太郎	最深部の深達度評価が難しかった食道 SM1 癌の一例 貧血を契機に発見された胃 sarcoma(inflammatory myofibroblastic tumor)の一例 巨大胃型腺腫の一例 潰瘍性大腸炎経過観察中にみられた大腸腫瘍の一例 大腸病変の一例  テーマ：臨床医が知っておくべき病理 第 2 弾 「非腫瘍性大腸ポリープ(鋸歯状病変を除く)」
平成 28 年 6 月 15 日 出席人数/394 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	藤枝市立総合病院 消化器内科 丸山 保彦 藤田保健衛生大学 消化管内科 大宮 直木 順天堂大学医学部附属静岡病院 病理診断科 和田 了	1) 広島大学病院 内視鏡診療科 2) 岐阜赤十字病院 消化器内科 3) 聖隷浜松病院 消化器内科 4) 松山赤十字病院 胃腸センター 5) 倉敷中央病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学	國原紗代子 高橋 裕司 宮津 隆裕 亀田 昌司 下立 雄一  八尾 隆史	小腸 Follicular Lymphoma の一例 inverted growth により粘膜下腫瘍様形態を呈したために、診断困難であった粘膜内癌の一例 胃原発性瀰胞性リンパ腫の一例 A 型胃炎に合併した胃底腺型胃癌の一例 超高分化型腺癌が混在した印環細胞癌の一例  テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その 2 「【小腸・大腸】虚血性腸炎、薬剤性腸炎」
平成 28 年 7 月 20 日 出席人数/ 362 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	石川県立中央病院 消化器内科 土山 寿志 市立旭川病院 消化器病センター 斉藤 裕輔 福井県立病院 病理診断科 海崎 泰治	1) 仙台市医療センター仙台オープン病院 消化器内科 2) 長野赤十字病院 消化器内科 3) 市立旭川病院 消化器病センター 4) 藤枝市立総合病院 外科 5) 藤田保健衛生大学 消化管内科 画像診断教育レクチャー 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学	前田 有紀 徳竹康二郎 柴田 進 羽田 綾馬 中野 尚子  八尾 隆史	食道 Carcinosarcoma 早期癌の一例 粘膜下腫瘍様の形態を呈した低分化胃癌の一例 狭窄症状を呈した十二指腸デスマイドの一例 小腸病変を契機に発見された IgG4 関連疾患の一例 胃型粘液形質を呈した 0-IIc 型早期直腸癌の一例  テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その 2 「【大腸】鋸歯状病変」
平成 28 年 8 月	休 会			
平成 28 年 9 月 21 日 出席人数/423 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック 中島 寛隆 大阪鉄道病院 消化器内科 清水 誠治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座 九嶋 亮治	1) 大阪医科大学 第二内科 2) 九州大学 病態機能内科学 3) 小樽済済会病院 消化器内科 4) 第一東和病院 消化器内科 5) 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック	川上 研 貫 陽一郎 安部 文恵 時岡 聡 渡海 義隆	完全型虫垂重積症を来した早期虫垂癌の一例 悪性リンパ腫が疑われ手術となった IgG4 関連疾患の一例 深達度診断に苦慮した食道早期癌の一例 特異な形態を呈した胃悪性リンパ腫の一例 ピロリ除菌治療後に発見された Linitis Plastica 型胃癌

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症例
平成28年11月16日 出席人数/403名 笹川記念会館2階 国際会議場	国立がん研究センター中央病院 内視鏡科 吉永 繁高 岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野 松本 主之 PCL JAPAN 病理・細胞診センター 川越ラボ 大倉 康男	1) 東京都がん検診センター 消化器内科 2) 島根大学医学部附属病院 消化器内科 3) 国立がん研究センター中央病院 内視鏡科 4) 大阪市立総合医療センター 消化器内科 5) 信州大学医学部 消化器内科 画像診断教育レクチャー 滋賀医科大学 臨床検査医学講座	小田 丈二 泉 大輔 高丸 博之 佐野 弘治 大野 和幸  九嶋 亮治	リンパ節転移を伴った表在型バレット食道腺癌の一例 表層に扁平上皮癌を伴う食道類基底細胞癌の一例 胃癌の一例 腸管症型 T 細胞リンパ腫(EATL)の一例 特異な形態を呈した直腸 NET の一例  テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その2 「【胃】良性ポリープと腺腫」
平成28年12月21日 出席人数/ 423名 笹川記念会館2階 国際会議場	東京都がん検診センター 消化器内科 入口 陽介 札幌医科大学医学部 消化器内科学講座内視鏡センター 山野 泰穂 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学 味噌 洋一	1) 聖マリア病院 消化器内科 2) 秋田赤十字病院 消化器病センター 3) 手稲溪仁会病院 消化器病センター 4) 弘前大学医学部附属病院 消化器血液内科 5) 大阪府立成人病センター 消化管内科 画像診断教育レクチャー 福井県立病院 病理診断科	河野 弘志 中岡 宙子 原田 拓 菊池 英純 加藤 穰  海崎 泰治	二段隆起、色調不均一所見を呈した大腸 T1b 癌の一例 多彩な表面構造を呈した S 状結腸病変の一例 術前内視鏡診断が困難であった直腸粘膜脱症候群の一例 3年の経過で形態変化を観察した十二指腸 Brunner 腺過誤腫の一例 腺腫を随伴した胃型腺癌の一例  テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その2 「【胃】A型胃炎と胃カルチノイド」
平成29年1月18日 出席人数/400名 笹川記念会館2階 国際会議場	佐久医療センター 内視鏡内科 小山 恒男 福岡山王病院 消化器内科 小林 広幸 福岡大学医学部 病理学講座 二村 聡	1) 広島大学病院 内視鏡診療科 2) 手稲溪仁会病院 消化器病センター 3) 亀田総合病院 消化器内科 4) 広島市立安佐市民病院 消化器内科 5) 済生会福岡総合病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 岩手医科大学医学部 病理診断学講座	佐野村洋次 小林 陽介 森主 達夫 永田 信二 永松 諒介  菅井 有	ESDにて切除した胃 IFP(inflammatory fibroid polyp)の一例 8年の経過が追えた胃底腺型胃癌の一例 詳細な拡大観察が行えた、軽症の潰瘍性大腸炎に合併した境界不明瞭な上皮性腫瘍の一例 大腸癌との鑑別に苦慮した直腸 DLBCL の一例 回盲部に全周性連続性の帯状潰瘍を呈した活動性腸結核の一例  テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その2 「【胃】分化型腺癌」
平成29年3月15日 出席人数/498名 笹川記念会館2階 国際会議場	仙台厚生病院 消化器内視鏡センター 長南 明道 九州大学大学院医学研究院 病態機能内科学 江崎 幹宏 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学 八尾 隆史	1) 大阪市立十三市民病院 消化器内科 2) 松山赤十字病院 胃腸センター 3) NTT 東日本札幌病院 消化器内科 4) 福岡大学筑紫病院 消化器内科 5) 岐阜県総合医療センター 消化器内科	小野 洋嗣 田中 貴英 重沢 拓 今村健太郎 山下 晃司	UCに発生した LST 家族性地中海熱の一例 早期直腸低分化腺癌の一例 潰瘍痕を合併し特異な形態を呈したリンパ球浸潤胃癌の一例 黒色便を契機に診断された胃粘膜ランタン沈着症の一例

## 2 大腸研究会

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見について最先端の検討、討論を行った。

この研究会を通じて、「早期大腸がんの診断能の確立と普及」という大テーマが着実に進行し、若手研究者の育成に大いに貢献している。

平成28年度の月例検討症例内容は、大腸研究会実施明細のとおりである。

(平成29年3月31日現在)

### 【代表世話人】 1名

鶴田 修 久留米大学医学部 消化器病センター

### 【世話人】 10名

味岡 洋一 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学  
池上 雅博 東京慈恵会医科大学病院 病理部  
大倉 康男 PCL JAPAN 病理・細胞診センター 川越ラボ  
斎藤 彰一 がん研有明病院 消化器内科  
高木 篤 みなと医療生活協同組合協立総合病院 内科  
津田 純郎 岡山済生会総合病院健診センター  
富樫 一智 福島県立医科大学 会津医療センター  
小腸・大腸・肛門科学講座  
長浜 隆司 千葉徳洲会病院 消化器内科 内視鏡センター  
西俣 嘉人 南風病院 政記念消化器病研究所  
渡邊 聡明 東京大学大学院医学研究科 臓器病態外科学講座  
腫瘍外科学

### 【会計幹事】 2名

河野 弘志 聖マリア病院 消化器内科  
中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

(五十音順)

## 大腸研究会実施明細（平成 28 年度）

開催年月日	症例提示施設	発表医師	出席人数
平成 28 年 4 月 25 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 東京慈恵会医科大学附属病院 消化器・肝臓内科 3) 久留米大学医学部 消化器内科	小西 隆文 井出 大資 永田 務	33 名
平成 28 年 6 月 27 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 佐久医療センター 消化器内科 3) 東京慈恵会医科大学 内視鏡科 4) がん研有明病院 消化器内科	小西 隆文 篠原 知明 猪俣 寛子 田顔夫佑樹	55 名
平成 28 年 8 月 22 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) がん研有明病院 消化器内科	小西 隆文 田顔夫佑樹	40 名
平成 28 年 10 月	休 会		
平成 28 年 12 月 12 日	1) 戸畑共立病院 消化器内科 2) 佐久医療センター 消化器内科 3) 福岡大学筑紫病院 消化器内科 4) がん研有明病院 消化器内科 5) 協立総合病院 消化器内科	野田 啓裕 篠原 知明 八坂 達尚 斎藤 彰一 小西 隆文	51 名
平成 29 年 2 月 27 日	1) 長野赤十字病院 消化器内科 2) 協立総合病院 消化器内科 3) 佐久医療センター 消化器内科 4) がん研有明病院 消化器内科	徳竹康二郎 小西 隆文 篠原 知明 田顔夫佑樹	47 名

会場： 4・12 月 東京慈恵会医科大学 大学 1 号館 6 階講堂  
6・8・2 月 東京慈恵会医科大学 高木 2 号館 地下 1 階南講堂

## IV 研究成果の発表（下線は他施設共同研究者）

### 1 論文・著書

<原 著>

- 1) Hirotaka Nakashima Takuji Yamasaki Michiyo Owari  
Yoshitaka Tokai Hiroshi Kawachi Nobuhiro Sakaki Misao Yoshida  
「Mucin Phenotypic Expression and Submucosal Invasion of Gastric  
Differentiated-type Adenocarcinoma with Minimal Intestinal  
Metaplasia」  
Journal of Gastroenterology and Hepatology Research 2016 June  
Vol.5No.3 2058-2062  
平成 28 年 6 月
- 2) 中島 寛隆 工藤 泰  
「胃 X 線検診画像による *Helicobacter pylori* 感染診断について教育講演の  
有効性」  
日本消化器がん検診学会雑誌 第 55 巻 2 号 184-189  
平成 29 年 3 月

<総説・その他>

- 1) 榑 信廣  
「内視鏡所見でヘリコバクター・ピロリ感染胃炎を診断する」  
レーザー経鼻内視鏡で読み解く 胃炎の京都分類 2-3  
富士フイルムメディカル  
平成 28 年 5 月
- 2) 榑 信廣  
「技術革新と開発秘話 (1)拡大内視鏡」  
臨床消化器内科 第 31 巻 10 号 1311-1318 日本メディカルセンター  
平成 28 年 8 月

<著 書>

- 1) 渡海 義隆 中島 寛隆  
「ピロリ菌陰性時代の胃がん検診」  
ピロリ菌陰性時代の上消化管内視鏡 77-82 文光社  
平成 28 年 10 月
- 2) 榑 信廣  
「消化性潰瘍診療ガイドライン 2015（改訂第 2 版）」  
今日の治療指針 2017 1830-1834 医学書院  
平成 29 年 1 月

## 2 学会活動

- 1) 榊 信廣  
「食道・胃・十二指腸」  
第91回日本消化器内視鏡学会総会 ドクターE(endoscopy)セッション1  
司会 東京  
平成28年5月13日
  
- 2) 渡海 義隆 山崎 琢士 天野 由紀 尾割 道代 中島 寛隆  
榊 信廣 吉田 操  
「*H.pylori*(HP) 除菌後発見胃癌の内視鏡的特徴と急速進展予後不良例の解析」  
第91回日本消化器内視鏡学会総会 シンポジウム 東京  
平成28年5月13日
  
- 3) 中島 寛隆  
「胃 IEE2」  
第91回日本消化器内視鏡学会総会 一般口演 座長 東京  
平成28年5月13日
  
- 4) 山崎 琢士  
「進化する内視鏡医療－内視鏡学の未来へのかけ橋」  
第91回日本消化器内視鏡学会総会 一般口演 座長 東京  
平成28年5月14日
  
- 5) Takuji Yamasaki Yuki Amano Yoshitaka Tokai Michiyo Owari  
Hirotaka Nakashima Nobuhiro Sakaki Misao Yoshida  
「Marked Amount of Gray-Zone *H.pylori* Antibody Titer Cases Have High Risks of Gastric Cancer Due to Those Mucosal Atrophy」  
Digestive Disease Week 2016 リサーチフォーラム 口演 アメリカ  
平成28年5月21日
  
- 6) Yoshitaka Tokai Takuji Yamasaki Yuki Amano Michiyo Owari  
Hirotaka Nakashima Nobuhiro Sakaki Misao Yoshida  
「Endoscopic characteristics of gastric cancer and analyses of rapidly progressive cases after *HP* eradication」  
Digestive Disease Week 2016 ポスター アメリカ  
平成28年5月23日

- 7) Takuji Yamasaki Michiyo Owari Yuki Amano Yoshitaka Tokai  
Hirotaka Nakashima Nobuhiro Sakaki Misao Yoshida  
「High dose CAM with Vonoprazan (P-CAB) plus AMX regimen is the  
strongest *H.pylori* eradication triple therapy regimens to improve  
success rate of CAM based regimens」  
Digestive Disease Week 2016 ポスター アメリカ  
平成 28 年 5 月 26 日
- 8) 中島 寛隆 工藤 泰  
「検診 X 線像での *H.pylori* 感染診断について、教育講演の有用性」  
第 55 回日本消化器がん検診学会総会 シンポジウム 鹿児島  
平成 28 年 6 月 10 日
- 9) 山崎 琢士  
「胃における私のスクリーニング～拡大スコープを用いて～」  
第 102 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 サテライトセミナー 講師  
東京  
平成 28 年 6 月 11 日
- 10) 渡海 義隆 山崎 琢士 天野 由紀 榊 信廣  
「*H.pylori*(HP) 除菌後発見胃癌における癌検出困難因子の検討」  
第 22 回日本ヘリコバクター学会学術集会 シンポジウム 大分  
平成 28 年 6 月 24 日
- 11) 山崎 琢士 天野 由紀 渡海 義隆 榊 信廣  
「血清 *H.pylori* 抗体陰性高値例における内視鏡的胃粘膜萎縮と潜在する胃  
癌リスクについて」  
第 22 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ワークショップ 大分  
平成 28 年 6 月 25 日
- 12) 榊 信廣  
「国際分類からみた早期胃癌最新の拡大内視鏡診断」  
日本消化器病学会関東支部 第 28 回教育講演会イブニングセミナー 司会  
東京  
平成 28 年 6 月 28 日
- 13) 榊 信廣  
「胃の病気とピロリ菌」  
日本消化器病学会関東支部 第 91 回市民公開講座 講演 東京  
平成 28 年 7 月 2 日

- 14) 山本 美穂  
「ザ・ベストイメーjingコンテスト」  
第76回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部学術集会 第18回超音波  
研修委員会 司会 新潟  
平成28年8月20日
- 15) 榊 信廣  
「ヘリコバクター・ピロリ」  
第44回日本潰瘍学会 一般演題4 座長 北海道  
平成28年9月2日
- 16) 中島 寛隆  
「がん検診における消化器内視鏡のあり方」  
第24回日本がん検診・診断学会総会 セミナー 講演 東京  
平成28年9月17日
- 17) Takuji Yamasaki Michiyo Owari Yuki Amano Yoshitaka Tokai  
Hirotaka Nakashima Nobuhiro Sakaki Misao Yoshida  
「High dose CAM with Vonoprazan (P-CAB) plus AMX regimen is the  
strongest *H.pylori* eradication triple therapy regimens to improve  
success rate of CAM based regimens」  
United European Gastroenterology Week 2016 ポスター オーストリア  
平成28年10月17日
- 18) Takuji Yamasaki Motoyasu Chibai  
「Esomeprazole based triple therapy regimens (EAC/EAM) on *H.pylori*  
eradication therapy showed high success rate even if on EM of  
CYP2C19 polymorphism or CAM resistance」  
United European Gastroenterology Week 2016 ポスター オーストリア  
平成28年10月19日
- 19) Takuji Yamasaki Michiyo Owari Yuki Amano Yoshitaka Tokai  
Hirotaka Nakashima Nobuhiro Sakaki Misao Yoshida  
「High dose CAM with Vonoprazan (P-CAB) plus AMX regimen is the  
strongest *H.pylori* eradication triple therapy regimens to improve  
success rate of CAM based regimens.」  
Asian Pacific Digestive Week 2016 ポスター 日本  
平成28年11月3日



- 20) Takuji Yamasaki Motoyasu Chibai  
「A study of esomeprazole-based triple therapy regimens (EAC・EAM)  
on *H.pylori* eradication.」  
Asian Pacific Digestive Week 2016 ポスター 日本  
平成 28 年 11 月 3 日
- 21) Takuji Yamasaki Yuki Amano Yoshitaka Tokai Michiyo Owari  
Hirotaka Nakashima Nobuhiro Sakaki Misao Yoshida  
「Marked amount of gray-zone *H.pylori* antibody titer cases have high  
risks of gastric cancer due to those mucosal atrophy.」  
Asian Pacific Digestive Week 2016 ポスター 日本  
平成 28 年 11 月 3 日
- 22) Yoshitaka Tokai Takuji Yamasaki Yuki Amano Michiyo Owari  
Hirotaka Nakashima Nobuhiro Sakaki  
「Endoscopic characteristics of gastric cancer and analyses of rapidly  
progressive cases after *HP* eradication」  
Asian Pacific Digestive Week 2016 ポスター 日本  
平成 28 年 11 月 3 日
- 23) Hirotaka Nakashima Takumi Itoh Hiroshi Kawahira  
Takuji Yamasaki Michiyo Owari Yoshitaka Tokai  
Yuki Amano Nobuhiro Sakaki  
「Computer-Aided Endoscopic Diagnosis of *H. pylori* Infection」  
Asian Pacific Digestive Week 2016 一般口演 日本  
平成 28 年 11 月 5 日
- 24) 中島 寛隆  
「胃癌の臨床診断」  
2016 甘肅省消化器専門委員会学術年会及び蘭州市消化器学会年会 講演  
中国甘肅省  
平成 28 年 11 月 12 日
- 25) 山本 美穂  
「初心者のための腹部超音波実技講習会」  
日本消化器がん検診学会関東甲信越支部超音波研修委員会 実技指導講師  
東京  
平成 29 年 2 月 18 日

### 3 研究会・研修会における講演

- 1) 榑 信廣  
「胃がん検診とピロリ除菌治療」  
水戸消化器病研究会 特別講演 茨城  
平成 28 年 4 月 15 日
- 2) 工藤 泰  
「基準撮影法」  
NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構 教育研修委員会  
平成 28 年度第 1 基準撮影法講習会 講師 奈良  
平成 28 年 5 月 8 日
- 3) 山崎 琢士  
「ピロリ菌総除菌時代の現況と今後の課題・注意点」  
浦和医師会学術講演会 講演 埼玉  
平成 28 年 6 月 2 日
- 4) 工藤 泰  
「検診発見症例から考える、撮影・読影のピットホール」  
日本放射線技術学会東京支部 第 208 回技術ホーラム 講演 東京  
平成 28 年 6 月 17 日
- 5) 中島 寛隆  
「レーザー経鼻内視鏡を用いた上部ルーチン検査法」  
第 4 回レーザー内視鏡学術セミナー(in 東京) 講演 東京  
平成 28 年 6 月 18 日
- 6) 中島 寛隆  
「胃がん X 線検診の撮り方・読み方・考え方」  
平成 28 年度胃がん検診読影従事者講習会 講演 東京  
平成 28 年 7 月 4 日
- 7) 榑 信廣  
「対策型検診における胃内視鏡検診を理解する」  
平成 28 年度和歌山県がん検診体制強化事業  
胃がん(内視鏡)検診従事者研修会 講演 和歌山(田辺市)  
平成 28 年 8 月 20 日

- 8) 榑 信廣  
「対策型検診における胃内視鏡検診を理解する」  
平成 28 年度和歌山県がん検診体制強化事業  
胃がん(内視鏡)検診従事者研修会 講演 和歌山(和歌山市)  
平成 28 年 8 月 21 日
- 9) 中島 寛隆  
「経鼻内視鏡」  
第 1 回消化器 Live in Aizu ―消化管検査および治療の基本手技―  
デモンストレーション 福島  
平成 28 年 8 月 28 日
- 10) 中島 寛隆  
「胃背景粘膜の X 線像の評価法、診断法」  
第 90 回神奈川消化管撮影技術研修会 講演 神奈川  
平成 28 年 9 月 3 日
- 11) 渡海 義隆  
「ピロリ除菌後に発見された Linitis Plastica 型胃癌」  
早期胃癌研究会 9 月度例会 症例発表 東京  
平成 28 年 9 月 21 日
- 12) 山本 美穂  
「膵臓の描出と画像所見 …… (実践講座)」  
松戸医師会 第 264 回消化器病研修会 講演 千葉  
平成 28 年 10 月 21 日
- 13) 中島 寛隆  
「上部内視鏡検査におけるレーザー光源の有用性」  
FUJIFILM MEDICAL SEMINAR 2016 in 吉祥寺 講演 東京  
平成 28 年 11 月 17 日
- 14) 山本 美穂  
「超音波検査技術講習会」  
全国労働衛生団体連合会 実技指導講師 東京  
平成 28 年 11 月 19・20 日

- 15) 山本 美穂  
「超音波所見を極める・・・肝臓」  
超音波スクリーニング研修講習会 2016 五反田 司会 東京  
平成 28 年 12 月 17 日
- 16) 工藤 泰  
「病変をよりよく描出するには～撮影・読影のポイント～」  
日立メディコ 日立胃がん X 線検診セミナー in 横浜 講演 神奈川  
平成 29 年 1 月 14 日
- 17) 榊 信廣  
「胃がん検診におけるリスク層別化の可能性」  
第 16 回東京 *Helicobacter* カンファレンス 第二部招待講演 座長 東京  
平成 29 年 2 月 3 日
- 18) 中島 寛隆  
「Enjoy!ひだ ヒダ 襞 fold」  
第 13 回胃 X 線検査を楽しく学ぶ会 第 4 部 司会 埼玉  
平成 29 年 2 月 18 日
- 19) 山崎琢士「招聘勉強会」  
大塚製薬株式会社東京支社 講演 東京  
平成 29 年 3 月 22 日

## 4 共同研究

<原 著>

- 1) Miwa H Uedo N Watari J Sakaki N

「Randomised clinical trial: efficacy and safety of vonoprazan vs. lansoprazole in patients with gastric or duodenal ulcers - results from two phase 3, non-inferiority randomised controlled trials.」

Alimentary Pharmacology & Therapeutics 2017 Jan Vol.45No.2  
240-252

平成 29 年 1 月

<学会活動>

- 1) 徳永 健吾 伊藤 慎芳 浅岡 大介 榊 信廣 他

「シタフロキサシンを用いた *H.pylori* 三次除菌の有用性 ボノプラザンの有用性も含めて —東京都内多施設検討—」

第 22 回日本ヘリコバクター学会学術集会 パネルディスカッション 大分  
平成 28 年 6 月 25 日

- 2) 伊藤 慎芳 浅岡 大介 森 英毅 榊 信廣 他

「ペニシリンを用いないヘリコバクター除菌治療 —ボノプラザンは有用か?—」

第 22 回日本ヘリコバクター学会学術集会 パネルディスカッション 大分  
平成 28 年 6 月 25 日

## B 研修事業

### I 実技研修の受入れ

当協会における実技研修を希望する放射線技師を受け入れて指導した。  
主たる研修内容は、消化管の X 線検査であり、放射線技師 1 人を受け入れた。

#### 1 放射線技師

所属施設	受入数	研修期間		
		～3ヶ月	～6ヶ月	～12ヶ月
医療法人社団 三和会 中央診療所	1	1		
計	1	1		

### II 平成消化器懇話会の開催

地元開業医等を対象とする勉強会であり、専門医師の最新の診断や治療についての講演が聞けるということで多くの参加があり、有意義な会となった。

#### 『平成 28 年度第 1 回』

開催日：平成 28 年 7 月 8 日（金）  
場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック  
講演者：新潟大学地域医療教育センター  
魚沼基幹病院診療部長・消化器内科教授 小林 正明先生  
演題：「除菌後胃癌の内視鏡診断」

#### 『平成 28 年度第 2 回』

開催日：平成 28 年 11 月 22 日（火）  
場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック  
講演者：がん研有明病院副院長・消化器センター長 佐野 武先生  
演題：「胃癌手術の歴史、限界、展望」

#### 『平成 28 年度第 3 回』

開催日：平成 29 年 3 月 15 日（水）  
場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック  
講演者：東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科教授 猿田 雅之先生  
演題：「炎症性腸疾患の内視鏡診断と治療の新知見について」

## C クリニック運営事業

### 1 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行った。

人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診の検診受診者は 12,676 人であった。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診を行う巡回検診にも対応しており、検診受診者は 6,107 人であった。

### 2 診療事業

地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行った。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第 2 及び第 4 週の午前中のみ）

診療時間：午前 9 時～午後 4 時（午前 11 時 30 分～午後 1 時を除く。）

診療科目：内科、消化器科、呼吸器専門外来、肝臓専門外来

来院数（年間延べ人数）：10,403 人

### 3 特定保健指導

特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行った。

指導日：月曜日～金曜日

指導時間：午後 1 時～午後 4 時

指導内容：医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

### 4 その他

研究のテーマを臨床面から促進するため、職域集団を対象とする集団検診及び精密検査、その後の経過管理システムの構築を進め一定の成果を上げているが、さらにデータ整備システムを補強した。

また、急増している大腸がんの早期発見技術を確立するため、引き続き大腸検査の受診率向上とその検査機能の進歩に努めた。

# 1 平成 28 年度 施設内検診件数

(単位：件)

	人間ドック	生活習慣病 検 診	法定検診	婦 人 科 検 診	計
4 月	261	217	130	0	608
5 月	285	466	198	1	950
6 月	553	490	267	1	1,311
7 月	594	383	323	2	1,302
8 月	594	364	298	1	1,257
9 月	511	342	275	33	1,161
10 月	555	302	411	117	1,385
11 月	539	381	269	123	1,312
12 月	415	232	189	0	836
1 月	362	235	332	33	962
2 月	393	282	223	1	899
3 月	344	122	226	1	693
計	5,406	3,816	3,141	313	12,676

\* 婦人科検診は、人間ドック、生活習慣病検診及び法定検診における婦人科オプション項目以外で乳がん、子宮がん、卵巣がん、子宮筋腫等の検査を行った件数である。



## 2 平成 28 年度 巡回検診件数

(単位：件)

	検 診	胃 検 診	計
4 月	1,133	170	1,303
5 月	0	201	201
6 月	535	267	802
7 月	1,134	227	1,361
8 月	593	237	830
9 月	59	283	342
10 月	0	217	217
11 月	0	250	250
12 月	0	168	168
1 月	0	153	153
2 月	0	206	206
3 月	0	274	274
計	3,454	2,653	6,107

### 3 平成 28 年度 外来受診者数

(単位：人)

	平成 28 年度	平成 27 年度	差 引
4 月	935	859	76
5 月	790	719	71
6 月	955	1,015	△60
7 月	899	1,035	△136
8 月	936	962	△26
9 月	888	936	△48
10 月	879	1,057	△178
11 月	896	972	△76
12 月	804	1,012	△208
1 月	755	880	△125
2 月	804	1,054	△250
3 月	862	1,079	△217
計	10,403	11,580	△1,177

## 4 平成28年度 上部消化管 X線検査

### ① 目的別検査件数

(単位：件)

項 目		計	性 別		受 診 歴	
			男 性	女 性	初 回	逐 年
検 診	任意型	3,193	2,521	672	619	2,574
			(79.0%)	(21.0%)	(19.4%)	(80.6%)
	対策型	3,694	2,888	806	834	2,860
			(78.2%)	(21.8%)	(22.6%)	(77.4%)
一 般 診 療		4	3	1	4	0
			(75.0%)	(25.0%)	(100%)	(0%)
計		6,891	5,412	1,479	1,457	5,434

- ・「任意型」とは、個人の死亡リスクの減少を目的とする医療機関等から任意で提供されるがん検診をいう。
- ・「対策型」とは、企業や学校等の死亡率減少を目的とする公共的な予防対策として実施されるがん検診をいう。

### ② 受診者の年齢構成

(単位：件)

年 齢	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
任意型検診	55	596	1,185	892	431	33	1	3,193
対策型検診	31	579	1,687	1,053	331	11	2	3,694
計	86	1,175	2,872	1,945	762	44	3	6,887

### ③ 要精検率と精検受診者率（施設内）

(単位：件)

	検診全体			初回検診群			逐年検診群								
	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数						
任意型	213	6.7%	54	25.4%	3,193	45	7.3%	12	26.7%	619	168	6.5%	42	25.0%	2,574
対策型	197	5.3%	105	53.3%	3,694	44	5.3%	25	56.8%	834	153	5.3%	80	52.3%	2,860
計	410	6.0%	159	38.8%	6,887	89	6.1%	37	41.6%	1,453	321	5.9%	122	38.0%	5,434

- ・「要精検率」とは、検診受診者総数に対し、精密検査が必要とされた者の割合＜要精検率(%) = 要精検者数/受診者総数＞をいう。
- ・「精検受診率」とは、精密検査が必要とされた者のうち、実際に精密検査を受診したものの割合＜精検受診率(%) = 精検受診者数/要精検者数＞をいう。

④ 年齢階級別成績（検診全体）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	86	191	984	1,398	1,474	1,130	815	548	214	37	7	3	6,887
要精検者数	3	2	30	48	68	88	65	51	42	10	0	3	410	
精検受診者数	0	2	8	24	31	28	27	22	11	5	0	1	159	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	1	0	2	6	8	4	2	3	1	0	0	27
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	2	3	1	1	3	2	1	0	0	13
	その他の良性疾患	0	0	6	12	17	16	13	12	5	3	0	1	85
	異常なし	0	0	2	7	2	0	3	2	1	0	0	0	17
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	0	1	3	3	4	3	0	0	0	0	15
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑤ 年齢階級別成績（任意型検診 初回受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	30	39	142	106	105	85	53	35	19	5	0	0	619
要精検者数	0	0	6	4	9	10	6	5	3	2	0	0	45	
精検受診者数	0	0	1	2	5	2	0	1	0	1	0	0	12	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の良性疾患	0	0	1	2	2	0	0	1	0	1	0	0	7
	異常なし	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥ 年齢階級別成績（任意型検診 逐年受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	25	76	339	462	512	423	331	247	130	24	4	1	2,574
要精検者数	0	2	10	24	25	33	21	23	24	5	0	1	168	
精検受診者数	0	2	0	8	4	6	8	8	4	2	0	0	42	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	1	0	0	2	3	1	0	1	0	0	0	8
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
	その他の良性疾患	0	0	0	6	2	3	4	4	3	1	0	0	23
	異常なし	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	4
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑦ 年齢階級別成績（対策型検診 初回受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
		受診者数	17	16	123	189	164	165	83	63	13	1	0	0
	要精検者数	2	0	1	4	10	13	5	4	5	0	0	0	44
	精検受診者数	0	0	0	3	6	6	4	2	4	0	0	0	25
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	4
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	4
	その他の良性疾患	0	0	0	0	2	6	1	0	0	0	0	0	9
	異常なし	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	5
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑧ 年齢階級別成績（対策型検診 逐年受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
		受診者数	14	60	380	641	693	457	348	203	52	7	3	2
	要精検者数	1	0	13	16	24	32	33	19	10	3	0	2	153
	精検受診者数	0	0	7	11	16	14	15	11	3	2	0	1	80
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	2	2	3	1	2	1	1	0	0	12
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	1	2	1	1	1	0	0	0	0	6
	その他の良性疾患	0	0	0	4	11	7	8	7	2	1	0	1	41
	異常なし	0	0	0	4	0	0	2	1	0	0	0	0	7
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0	0	6
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 5 平成 28 年度 X 線検査件数

(単位：件)

部位別検査	検診形態		検査件数
胸部	外来	33	16,734
	契約検診	11,997	
	集団検診（施設）	2,209	
	集団検診（車）	2,495	
上部消化管	外来	4	6,891
	契約検診	3,193	
	集団検診（施設）	1,559	
	集団検診（車）	2,135	
下部消化管			6
胸部 CT			888
腹部 CT			43
頭部 CT			11
マンモグラフィ			373
骨密度			449
内臓脂肪測定			210
計			25,605

## 6 平成 28 年度 内視鏡検査件数

(単位：件)

検査件数	
上部消化管	6,105
経鼻内視鏡の内訳	<1,133>
下部消化管	1,774
計	7,879
生検件数	
上部消化管	578
下部消化管	248
計	826
下部消化管治療件数	
大腸粘膜切除術 (EMR)	68

(単位：件)

鎮静剤使用による検査件数	
上部消化管	2,519
下部消化管	1,055
計	3,574

**生検件数**：内視鏡下で組織片を得るための検査件数であり、病理組織診断、ヘリコバクター・ピロリ感染診断、細菌培養同定検査を目的としている。

## 7 平成 28 年度 病理検査件数

(単位：件)

		施設内症例		施設外症例		計
		上 部	下 部	上 部	下 部	
組織検査	生 検	585	253	—	—	838
	内視鏡切除	2	79	4	1	86
	外科切除	—	1	1	—	2
計		920		6		926

細胞検査	2,015
------	-------

## 8 平成 28 年度 がん患者数

(単位：人)

	食道がん		胃 がん		大腸がん	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
～29 歳						
30～34 歳						
35～39 歳			1			
40～44 歳						
45～49 歳	1				1	
50～54 歳			1		4	
55～59 歳	1	1	3	1	3	
60～64 歳			2		3	
65～69 歳			1		1	
70～74 歳			1	1	1	
75～79 歳						
80 歳～						
小 計	2	1	9	2	13	0
計	3		11		13	



## 9 平成 28 年度 食道がん占拠部位別件数

(単位：件)

Ce	3
Ut	
Mt	
Lt	
Ae	
EG	
計	3

## 10 平成 28 年度 胃がん占拠部位

(単位：件)

	Less	Gre	Ant	Post	計
U		1		1	2
M	3	1	1		5
L	1	1	2		4
Other					0
計	4	3	3	1	11

## 11 平成 28 年度 大腸がん占拠部位と肉眼形態

(単位：件)

	0								計
	Ip	Isp	Is	IIa	IIc	1	2	3	
C									0
A		1					1		2
T				1	1				2
D									0
S	2	1							3
RS	1								1
R		1	1		1		2		5
計	3	3	1	1	2	0	3	0	13

## 12 平成 28 年度 腹部超音波検査件数

(単位：件)

		契約検診		外 来		計
		6,230		542		6,772
		男 性	女 性	男 性	女 性	
		4,754	1,476	331	211	
有所見 内 訳	脂肪肝	2,046	220	137	36	2,439
	肝嚢胞	1,340	363	118	79	1,900
	肝血管腫（疑い）	481	202	40	32	755
	肝腫瘍（疑い）	30	5	8	1	44
	慢性肝疾患	30	4	8	3	45
	肝硬変	7	0	6	4	17
	門脈瘤	6	0	1	0	7
	肝内石灰化	218	36	26	9	289
	胆嚢ポリープ	1,451	324	102	50	1,927
	胆石	250	56	32	19	357
	胆嚢腺筋腫症	152	46	18	12	228
	慢性胆嚢炎	8	1	0	0	9
	胆嚢壁内結石	144	19	14	3	180
	膵嚢胞	84	14	16	16	130
	膵石	6	2	2	0	10
	膵腫瘍（疑い）	16	16	10	8	50
	腎嚢胞	1,389	193	144	58	1,784
	腎結石・尿管結石	159	19	7	4	189
	水腎症	43	14	1	4	62
	腎内石灰化	1,059	191	89	35	1,374
	腎血管筋脂肪腫	37	31	9	8	85
	腎腫瘍（疑い）	8	1	1	0	10
	馬蹄腎	7	2	1	1	11
脾嚢胞	8	2	1	1	12	
脾腫瘍（疑い）	7	2	0	0	9	
副腎腫瘍	13	4	0	1	18	

### 13 平成 28 年度 乳腺超音波検査件数及び有所見者数

乳腺超音波件数	1,375 件
---------	---------

有所見 内訳

(単位：件)

内 訳	契約検診	外 来	計
乳腺症	33	4	37
乳腺腫瘍（疑い）	40	1	41
乳腺嚢胞	756	26	782
嚢胞内腫瘍（疑い）	2	0	2
非浸潤癌（疑い）	4	0	4
浸潤癌（疑い）	0	1	1
線維腺腫（疑い）	237	8	245
乳房脂肪腫	1	0	1
乳管拡張症	14	2	16

## 14 平成 28 年度 臨床検査件数

(単位：件)

種 別	件 数
生 化 学	206,727
検 尿	77,430
検 便	19,274
血 液	70,349
血 清 学	36,143
ウイルス (HIV)	2
細 菌	65
合 計	409,990

## 15 平成 28 年度 臨床検査別件数

(単位：件)

種 別		件 数
生 化 学	蛋 白	21,577
	糖	23,779
	脂 質	57,878
	酵 素	65,545
	その他	37,948
	計	206,727
検 尿		77,430
検 便	検 便	17,377
	検 便 (虫卵)	1,897
	計	19,274
血 液	血液形態学	630
	血液凝固	109
	血球計数	69,610
	計	70,349
血清学		36,143
ウイルス (HIV)		2
細 菌		65
合 計		409,990

## D 啓発事業

研究事業の成果を社会還元するため、消化器がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性を中心として、これからの健康管理に資するべく、がん対策の基礎知識並びに生活習慣病も含む、幅広い健康管理法について各種の啓発活動を行った。

また、同主旨のもと周辺医師会・病院・企業健康管理室等と連携し、講演会、勉強会等を通しての読影・診断 X 線（胃透視）、上部・下部内視鏡、超音波などの技術の向上と健康意識の普及に努めた。

### 1 保健指導者セミナー

開催日：平成 28 年 10 月 26 日（水）

場所：鉄鋼会館 会議室

講師：公益財団法人ちば県民保健予防財団 総合検診センター  
診療部長 橋本 秀行

テーマ：「乳がんの早期発見について」

\* セミナーの内容をまとめた冊子を作成しているところであり、今後、無料配布する予定である。

### 2 ニュースレター

消化器がんや医療機器について、わかりやすく解説したニュースレターを発行した。平成 28 年度は、次の事項を取り上げ、疾病等に関する普及啓発に努めた。

第 30 号 「消化器MRI 検査について」

第 31 号 「大腸内視鏡検査前処置について」

第 32 号 「骨粗しょう症について」

第 33 号 「腸内細菌と病気の関連について」

第 34 号 「放射線治療について」

第 35 号 「脂肪について」

## E 法人運営

### 1 評議員会・理事会の開催

#### 第15回 理事会

日 時	平成28年5月27日(金) 16時から
場 所	鉄鋼会館 7階 705号室
出席数	理事8名、監事1名
決議事項	① 平成27年度事業報告書・計算書類等の件 ② 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の一部改正の件 ③ 退職金規程の一部改正の件 ④ 第5回評議員会の日時、場所及び目的である事項の件
報告事項	平成27年度資金運用実績について

#### 第5回 評議員会

日 時	平成28年6月16日(木) 16時から
場 所	東京証券会館9階 第8会議室
出席数	評議員9名、理事3名
決議事項	① 平成27年度事業報告書・計算書類等の件 ② 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の一部改正の件 ③ 評議員の選任の件 ④ 理事及び監事の選任の件

#### 第16回 理事会

日 時	平成28年6月17日(金) 16時から
場 所	東京証券会館9階 第10会議室
出席数	理事9名、監事3名
決議事項	① 理事長の選定の件 ② 利益相反取引の承認の件 ③ 経理規程の一部改正の件 ④ 常勤役員報酬の件
報告事項	第5回評議員会開催概要について

#### 第17回 理事会

日 時	平成28年11月7日(月) 16時から
場 所	東京証券会館9階 第8会議室
出席数	理事10名、監事3名
決議事項	① 利益相反取引の承認の件
報告事項	業務執行状況について 利益相反取引の報告について

## 第18回 理事会

日 時	平成29年3月15日(水) 16時から
場 所	東京証券会館9階 第6会議室
出席数	理事9名、監事3名
決議事項	① 平成29年度事業計画書・収支予算書の件 ② 平成29年度資金運用の方針及び運用計画の件
報告事項	業務執行状況について 利益相反取引の報告について

### 2 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大とがん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、引き続き研究用機器を整備した。

- ・ X線画像管理システム
- ・ マンモグラフィ撮影装置

### 3 資金計画

機器装置、設備等の更新及び事業の実施等に必要な資金は、自己資金のほか、寄附金、賛助会費及び補助金等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努めた。

### 4 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の規程等の見直しを行い、内部統制が確実に実行できるようにした。また、職員に対して法令及び規程等を周知し、その徹底を図った。





# 平成 28 年度 計算書類等



# A 貸借対照表

平成 29 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	148,750,231	140,748,003	8,002,228
未収金	52,199,429	67,998,505	△ 15,799,076
薬品	1,310,285	712,355	597,930
診療材料	56,170	83,390	△ 27,220
貯蔵品	468,302	679,440	△ 211,138
前払費用	11,072,997	10,701,033	371,964
流動資産合計	213,857,414	220,922,726	△ 7,065,312
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	23,077,889	830,275	22,247,614
投資有価証券	176,922,111	199,169,725	△ 22,247,614
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	34,139,040	51,234,292	△ 17,095,252
減価償却引当資産	83,000,000	83,000,000	0
特定資産合計	117,139,040	134,234,292	△ 17,095,252
(3) その他固定資産			
敷金	18,383,640	18,383,640	0
入居保証金	4,080,000	4,080,000	0
造作設備	18,819,607	23,774,197	△ 4,954,590
什器備品	48,941,166	33,055,988	15,885,178
研究機器	82,954,170	86,924,860	△ 3,970,690
ソフトウェア	1,053,723	1,105,659	△ 51,936
電話加入権	1,798,182	1,798,182	0
一括償却資産	658,208	317,804	340,404
長期前払費用	1,274,566	0	1,274,566
その他固定資産合計	177,963,262	169,440,330	8,522,932
固定資産合計	495,102,302	503,674,622	△ 8,572,320
資産合計	708,959,716	724,597,348	△ 15,637,632
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
買掛金	11,175,384	11,508,937	△ 333,553
未払費用	20,976,120	21,431,936	△ 455,816
未払金	17,190,488	16,618,113	572,375
リース債務	35,657,084	30,759,484	4,897,600
預り金	1,728,411	1,680,274	48,137
賞与引当金	10,031,463	12,404,373	△ 2,372,910
未払消費税	1,863,700	5,888,900	△ 4,025,200
流動負債合計	98,622,650	100,292,017	△ 1,669,367
2. 固定負債			
役員退職慰労引当金	6,341,800	21,797,800	△ 15,456,000
退職給付引当金	27,797,240	29,436,492	△ 1,639,252
長期未払金	6,685,439	5,413,359	1,272,080
リース債務	90,793,233	79,433,917	11,359,316
固定負債合計	131,617,712	136,081,568	△ 4,463,856
負債合計	230,240,362	236,373,585	△ 6,133,223
<b>III 正味財産の部</b>			
一般正味財産	478,719,354	488,223,763	△ 9,504,409
(うち基本財産への充当額)	( 200,000,000 )	( 200,000,000 )	
正味財産合計	478,719,354	488,223,763	△ 9,504,409
負債及び正味財産合計	708,959,716	724,597,348	△ 15,637,632

## B 正味財産増減計算書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,172,786	1,301,614	△ 128,828
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	235,740	205,925	29,815
特定資産受取配当金	210,423	189,840	20,583
③ 受取会費			
賛助会員受取会費	3,629,000	4,689,000	△ 1,060,000
④ 事業収益			
診断診療事業収益	599,195,033	625,713,706	△ 26,518,673
⑤ 受取寄附金			
受取寄附金	14,942,768	15,935,000	△ 992,232
⑥ 雑収益			
受取利息	12,602	25,291	△ 12,689
雑収益	2,629,771	2,203,213	426,558
経常収益計	622,028,123	650,263,589	△ 28,235,466
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	14,131,538	11,040,000	3,091,538
給料手当等	224,137,162	230,980,685	△ 6,843,523
役員退職慰労引当金繰入額	625,170	860,000	△ 234,830
退職給付費用	5,916,848	6,395,980	△ 479,132
福利厚生費	28,088,270	29,488,776	△ 1,400,506
旅費交通費	1,042,344	1,342,145	△ 299,801
通信運搬費	5,103,531	5,103,828	△ 297
医療材料費	35,269,147	36,954,292	△ 1,685,145
消耗品費	15,033,546	14,402,398	631,148
修繕費	20,297,300	22,963,461	△ 2,666,161
図書費	629,357	597,346	32,011
印刷製本費	3,188,550	3,368,592	△ 180,042
光熱水料費	3,671,927	4,069,628	△ 397,701
貸借料	83,234,607	83,436,868	△ 202,261
委託費	94,465,152	94,359,191	105,961
リース費	433,440	161,400	272,040
会議費	61,874	200,804	△ 138,930
保険料	352,610	472,240	△ 119,630
支払負担金	640,200	724,000	△ 83,800
支払利息	164,160	0	164,160
支払手数料	1,711,203	1,558,857	152,346
交際費	31,380	25,608	5,772
広告費	123,428	124,940	△ 1,512
減価償却額	44,852,033	41,087,380	3,764,653
租税公課	5,849,839	6,013,730	△ 163,891
雑費	272,902	1,033,920	△ 761,018

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費			
役 員 報 酬	11,742,640	23,760,000	△ 12,017,360
給 料 手 当 等	19,043,260	16,249,306	2,793,954
役 員 退 職 慰 勞 金 繰 入 額	1,175,830	1,740,100	△ 564,270
退 職 給 付 費 用	435,900	182,600	253,300
福 利 厚 生 費	4,158,696	5,267,993	△ 1,109,297
旅 費 交 通 費	1,823	9,112	△ 7,289
通 信 運 搬 費	33,261	8,896	24,365
消 耗 品 費	42,000	192,601	△ 150,601
修 繕 費	216,000	0	216,000
図 書 費	7,386	0	7,386
印 刷 製 本 費	64,500	52,200	12,300
光 熱 水 料 費	158,391	154,582	3,809
賃 借 料	1,995,000	1,995,000	0
委 託 費	148,000	1,614,118	△ 1,466,118
会 議 費	224,120	258,405	△ 34,285
保 険 料	0	1,328,161	△ 1,328,161
支 払 負 担 金	102,000	96,667	5,333
支 払 寄 附 金	100,000	55,000	45,000
交 際 費	35,000	30,000	5,000
減 価 償 却 費	691,091	448,163	242,928
顧 問 料	1,665,556	1,665,556	0
租 税 公 課	14,750	2,000	12,750
雑 費	0	16,000	△ 16,000
經常費用計	631,382,722	651,892,529	△ 20,509,807
評価損益等調整前当期經常増減額	△ 9,354,599	△ 1,628,940	△ 7,725,659
特定資産評価損益等	△ 349,939	△ 132,425	△ 217,514
評価損益等計	△ 349,939	△ 132,425	△ 217,514
当期經常増減額	△ 9,704,538	△ 1,761,365	△ 7,943,173
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① 固定資産売却益	398,149	980,000	△ 581,851
経常外収益計	398,149	980,000	△ 581,851
(2) 経常外費用			
① 固定資産売却損	117,891	0	117,891
① 固定資産除却額			
研究機器除却額	73,508	0	73,508
什器備品除却額	6,621	1	6,620
経常外費用計	198,020	1	198,019
当期経常外増減額	200,129	979,999	△ 779,870
当期一般正味財産増減額	△ 9,504,409	△ 781,366	△ 8,723,043
一般正味財産期首残高	488,223,763	489,005,129	△ 781,366
一般正味財産期末残高	478,719,354	488,223,763	△ 9,504,409
II 指定正味財産増減の部			
(1) 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	478,719,354	488,223,763	△ 9,504,409

## C 財務諸表に対する注記

### 1 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価方法及び評価基準

満期保有有価証券	…	原価法又は償却原価法(定額法)による。
その他有価証券		
時価のあるもの	…	決算日の市場価格等に基づく時価法による。 (売却原価は移動平均法により算定する。)
時価のないもの	…	移動平均法による原価法による。

#### (2) 棚卸資産の評価方法及び評価基準

薬品、診療材料及び貯蔵品	…	最終仕入原価法による低価基準
--------------	---	----------------

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

法人税法の規定に基づく定額法による。

#### (4) 引当金の計上基準

① 賞与引当金	…	財団職員の賞与に充てるため、将来の支給見込金額のうち当期の負担額を計上している。
② 退職給付引当金	…	財団役職員の自己都合退職による退職金要支給額を計上している。

#### (5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引で、リース開始日が会計基準適用前のものについては、改正前会計基準である通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用している。

#### (6) 消費税等の会計処理

税抜方式

### 2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	830,275	22,247,614	0	23,077,889
投資有価証券	199,169,725	0	22,247,614	176,922,111
小 計	200,000,000	22,247,614	22,247,614	200,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	51,234,292	8,050,148	25,145,400	34,139,040
減価償却引当資産	83,000,000	349,939	349,939	83,000,000
小 計	134,234,292	8,400,087	25,495,339	117,139,040
合 計	334,234,292	30,647,701	47,742,953	317,139,040

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	23,077,889	0	23,077,889	—
投資有価証券	176,922,111	0	176,922,111	—
小 計	200,000,000	0	200,000,000	—
特定資産				
退職給付引当資産	34,139,040	—	—	34,139,040
減価償却引当資産	83,000,000	0	83,000,000	—
小 計	117,139,040	0	83,000,000	34,139,040
合 計	317,139,040	0	283,000,000	34,139,040

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
造 作 設 備	96,299,040	77,479,433	18,819,607
什 器 備 品	83,236,194	34,295,028	48,941,166
研 究 機 器	341,898,299	258,944,129	82,954,170
ソ フ ト ウ ェ ア	3,308,923	2,255,200	1,053,723
合 計	524,742,456	372,973,790	151,768,666

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時価 (円換算)	評価損益
丸 紅 株 式 会 社 社 債	50,033,872	50,068,250	34,378
ソフトバンク株式会社社債	40,978,663	41,028,700	50,037
三菱UFJ信託銀行株式会社社債	30,909,576	31,791,000	881,424
株式会社三井住友銀行社債	30,000,000	30,099,000	99,000
株式会社三井住友銀行社債	20,000,000	20,082,480	82,480
東 京 都 公 募 公 債	25,000,000	24,997,375	△ 2,625
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	10,000,000	10,021,000	21,000
合 計	206,922,111	208,087,805	1,165,694

6 引当金の増減額及びその残高

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	12,404,373	36,526,552	38,899,462	0	10,031,463
役員退職慰労引当金	21,797,800	2,431,800	17,887,800	0	6,341,800
退職給付引当金	29,436,492	5,618,348	7,257,600	0	27,797,240
合 計	63,638,665	44,576,700	64,044,862	0	44,170,503

# D 財 産 目 録

平成 29 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額		
(流動資産)	現金預金				
	現金	手元保管	運転資金として	586,203	
	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	"	3,924,399	
		三井住友銀行東京中央支店	"	28,205,927	
		東京都民銀行茅場町支店	"	43,480,638	
		みずほ銀行丸の内中央支店	"	44,298,406	
		ゆうちょ銀行	"	129,882	
		三菱東京UFJ銀行八重洲通支店	"	4,896,241	
		三井住友信託銀行本店営業部	"	3,228,535	
	定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	"	20,000,000	
			<b>&lt; 現金預金計 &gt;</b>	<b>148,750,231</b>	
	医業未収入金	社会保険報酬支払基金	公益目的事業の収入である。	9,355,104	
		伊藤忠健康保険組合	"	7,879,464	
		東京都国民健康保険団体連合会	"	4,287,251	
		東京証券業健康保険組合	"	4,153,460	
		上記他122件	"	26,524,150	
			<b>&lt; 医業未収入金計 &gt;</b>	<b>52,199,429</b>	
	薬品	X線撮影用造影剤他		1,310,285	
	診療材料	X線フィルムほか		56,170	
	貯蔵品	印刷物ほか		468,302	
	前払費用	日経プラザアンドサービス	H29.4分賃借料	6,631,323	
		通勤手当	役職員の6か月分通勤費である。(H29.4~H29.9)	3,242,900	
		タカハシビル	H29.4分賃借料	718,200	
	リース契約に関する利息	公益目的保有財産	466,074		
	東京証券会館	理事会会場費	14,500		
		<b>&lt; 前払費用計 &gt;</b>	<b>11,072,997</b>		
<b>流動資産合計</b>			<b>213,857,414</b>		
(固定資産)	基本財産				
	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	運用益を公益目的事業に使用している。	23,077,889	
	投資有価証券	丸紅社債	"	50,033,872	
		ソフトバンク社債	"	40,978,663	
		三菱UFJ信託銀行社債	"	30,909,576	
		三井住友銀行社債	"	30,000,000	
		東京都公募債	"	25,000,000	
			<b>&lt; 基本財産計 &gt;</b>	<b>200,000,000</b>	
	特定資産	退職給付引当資産	普通預金	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	18,840,040
			三井住友銀行東京中央支店	"	10,000,000
			三井住友フィナンシャルグループ社債	"	5,299,000
		減価償却引当資産	普通預金	公益目的事業用資産の取得資金	53,000,000
			三井住友銀行東京中央支店	"	20,000,000
			三井住友銀行社債	"	9,540,567
			野村證券ファンドラップ	"	459,433
			三井住友銀行東京中央支店	"	
				<b>&lt; 特定資産計 &gt;</b>	<b>117,139,040</b>
	その他固定資産	敷金	株式会社日本経済新聞社	日経茅場町ビル敷金	18,383,640
		入居保証金	タカハシビル	タカハシビル入居保証金	4,080,000
		造作設備	2FX線室改装工事	公益目的保有財産	4,400,000
			3F診察室改装工事	"	4,186,000
			CT室改修工事	"	2,638,271
			4Fドック改装工事	"	2,415,578
		3階・4階改修工事	"	1,267,820	
		その他造作設備	"	2,215,677	
		"	法人会計保有財産	1,696,261	



	什器備品	X線画像管理システム	公益目的保有財産	21,666,667	
		検診システム	〃	13,920,850	
		電子カルテ	〃	8,060,000	
		複合機5台	〃	1,140,870	
		医療系LANケーブル工事	〃	1,127,334	
		本館医局LANケーブル配線工事	〃	769,167	
		電子カルテ端末	〃	433,026	
		研究用ノートPC	〃	256,278	
		本館医局電話主装置	〃	150,826	
		薬用冷蔵ショーケース	〃	103,609	
		リム型薬用冷凍冷蔵庫	〃	79,521	
		その他什器備品	〃	328,581	
		労務システムサーバ	法人会計保有財産	904,434	
		その他什器備品	〃	3	
		研究機器	電子内視鏡及び各種内視鏡機器	公益目的保有財産	23,965,202
			X線テレビ装置（胃部）3台	〃	18,000,001
			マルチスライスCT	〃	16,660,000
	乳房X線撮影装置		〃	16,468,750	
	婦人科超音波診断装置		〃	1,777,050	
	全自動血球計数器		〃	1,163,400	
	婦人科診察台		〃	899,331	
	自動身長計付体重計		〃	885,000	
	内臓脂肪測定装置		〃	468,600	
	非接触眼圧計		〃	448,400	
	医用テレメーター式		〃	399,133	
	炭酸ガス装置		〃	383,284	
	炭酸ガス送気装置		〃	318,750	
画像サーバーNAS	〃		238,712		
ウォータープリーズ	〃	221,754			
ベッドサイドモニタ	〃	219,104			
婦人科診察ユニット	〃	200,271			
その他	〃	237,425			
〃	法人会計保有財産	3			
電話加入権	3668-6803他	公益目的保有財産	1,798,182		
ソフトウェア	電子カルテ他	〃	392,239		
	労務管理システム	法人会計保有財産	661,484		
一括償却資産	平成26年度分	公益目的保有財産	3		
	〃	法人会計保有財産	2		
	平成27年度分	公益目的保有財産	64,668		
	平成28年度分	〃	593,535		
長期前払費用	リース契約に関する利息	〃	1,274,566		
			＜その他固定資産計＞	177,963,262	
<b>固定資産合計</b>				<b>495,102,302</b>	
<b>資産合計</b>				<b>708,959,716</b>	

(流動負債)	買掛金	メディセオ	公益目的事業の費用である。	5,784,597
		富士フィルムメディカル	〃	2,194,257
		リソパシステムズ医療システム販売	〃	1,574,943
		東邦薬品	〃	1,222,999
		アルフレッサ	〃	233,212
		サンメディックス	〃	130,906
		上記他1件		34,470
			<b>&lt;買掛金計&gt;</b>	<b>11,175,384</b>
	未払費用	締後給料	H29.3月分	18,899,894
		社会保険料	〃	1,924,967
		郵便料金	〃	147,822
		上記他1件		3,437
		<b>&lt;未払費用計&gt;</b>	<b>20,976,120</b>	
	未払金	L S I メディエンス	公益目的事業の費用である。	5,056,219
		戸田ビルパートナーズ	〃	1,525,089
エーゼット		〃	1,219,860	
アデコ		〃	1,082,156	
サン・ウォッシング		〃	1,077,570	
スタッフサービス		〃	963,488	
東芝システムズ		〃	678,780	
リース残債務に関わる消費税等		〃	2,476,264	
上記他26件		〃	3,111,062	
		<b>&lt;未払金計&gt;</b>	<b>17,190,488</b>	
リース債務	医療機器	公益目的事業の費用である。	25,782,800	
	什器備品	〃	9,874,284	
	<b>&lt;リース債務計&gt;</b>	<b>35,657,084</b>		
預り金	源泉所得税	H29.3月分	939,991	
	市町村民税	〃	773,300	
	上記他1件		15,120	
	<b>&lt;預り金計&gt;</b>	<b>1,728,411</b>		
賞与引当金	職員	職員の賞与の引当金である。	10,031,463	
未払消費税	H28年度分		1,863,700	
<b>流動負債合計</b>				<b>98,622,650</b>
(固定負債)	役員退職慰労引当金		役員退職慰労金の引当金である。	6,341,800
	退職給付引当金		職員の退職金の引当金である。	27,797,240
	長期未払金	リース残債務に関わる消費税等		6,685,439
	リース債務	医療機器	公益目的事業の費用である。	54,530,650
		什器備品	〃	36,262,583
	<b>&lt;リース債務計&gt;</b>	<b>90,793,233</b>		
<b>固定負債合計</b>				<b>131,617,712</b>
<b>負債合計</b>				<b>230,240,362</b>
<b>正味財産</b>				<b>478,719,354</b>

平成 29 年 6 月 12 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会 事務局

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町 2 丁目 6 番 12 号

Tel. 03-3668-6803

Fax. 03-3639-5404

URL <http://www.soiken.or.jp/>

E-mail [mail@soiken.or.jp](mailto:mail@soiken.or.jp)